

タイトル: ペットケアマンションの創出「ビジネスモデルが命」

第二回 「承」2:8の原理原則と考え方

働き者のアリさん全部が全部働き者ではないようです。100匹いればその内の20匹が一生懸命働いているのだそうです。でもアリさんの数が多すぎるので我々人間は全部が働き者と錯覚してしまうそうです。ビジネスでもそれは言えると思います。

10人中8人の人が「それは面白いビジネスだ」と答えるものは「出来上がっているビジネス」であり、競合他社がいるビジネスでもあります。

逆に10人中8人が「どうかな、データがあまりないし危険なのでは」というものは、新しいビジネスになる可能性が高いとすることだと考えます。

アドホックのペットケアマンションも最初の頃は…。

地主さん又はオーナーさん「ペットは室内で飼ってはダメだよ」

銀行関係「事例がないので、データがないのでわかりかねます。」

不動産建設関係「まだむりでしょう。」「難しい問題がたくさんあるでしょう。」

だから私は一番先に手がけてみたのです。

2005年3月現在の私の考え方である。

考え方とは自己の成長により、考え方も成長していくものであります。

「考え方とは」

知性や気高さ＝自己実現（夢や目標）のために努力する人、先生といわれる人や優れたものを望む人、地位や名誉を望む人または望まなくてもその地位や名誉を手に入れられる人に自然と身につく考え方。

もう一方では、生まれ育った環境が劣悪でも両親の考え方が貧弱でも、自分が引き当てた「本」や影響力のある「人」などによって知性や気高さが備わる人がいるのです。

両者とも知性や気高さという「考え方」により、心が作用しそれを脳に伝達してジャッジメントを繰り返し原因作りや結果を求めていくのです。

人が生み出してきた自然物以外の「物」には全てこの「知性」と「考え方」が備わってくるのです。だから同じようなものを二人の作者が生み出しても同じものではなく、知性や考え方が備わり二分されるのです。

その知性や考え方が求められる時代は、物が氾濫し、消費者が主導権を握り得た時代など特に求められ、企業もそれに投資し、知性や考え方を持った消費者がそれを求めるのです。

それを勝ち組負け組み企業とも言い、勝ち組負け組み商品とも言うのです。

特に不動産業というカテゴリーで商売をしていると、サービス業だということを忘れて

しまいがちです。その結果、「外国人お断り」「水商売お断り」「ペットお断り」になってしまいがちですね。外国人お断りでも港区渋谷区を中心に展開されているKENコーポレーションさんは、素晴らしい特化型のビジネスモデルです。ある日営業マンとお話をする機会に恵まれ驚いたことがあります。外資系の外国の方をメインに顧客としているせいか日曜日には浅草や根津へ観光ガイドなど様々な困りごとに対応しているのです。正にコンシェルジュサービスをしているのです。さすがに究極の満足をサービスという形で提供している勝ち組であり素晴らしい考え方だなと感じました。私共もペットケアサービス付アパートメント ペットケアマンションと銘打って掲げている以上、究極の満足をペットユーザーに提供するため、新たなサービスを始めました。

- ① ADHOCオリジナルペット関連設備（うんちダスト・フットシャワー等）のレンタル開始
- ② 飼い主安心サポートの提供（ペット安心保険+webペットカルテ+PAC安心保険+webペットカルテ+PAC会報誌配布+ペット医療相談 e-mail)
- ③ 出張トリミングサービス
- ④ ペットシッターサービス
- ⑤ 知的ペットセミナーの開催

特に②の出張トリミングサービスはマンション設計の段階からエントランスホールにADHOCオリジナルのトリミング設備を導入してもらいマンションの高値安定に貢献しています。又入居者は弊社のwebからトリミング予約をしていただきペットケアショップPETSPAのサービスをマンションに居ながら割安なサービスを受けることができるモデルとなっております。このサービスは本来ありがちなペットショップをテナントに入れてという考え方ではなく、マンション事業の自立化という観点と日本国中どこでもペットショップや動物病院に頼らず経営できるモデルではなくてはならないと言うADHOCの考え方です。つまりテナントに入るペットショップの経営が厳しいことを知らないコンサルタントの考え方であり、マンション事業は本来、未来栄光又は借入期間は最低でも継続性が必要と言う考え方を持ち合わせていない原因と結果なのです。

ペット可（ペット同居型も含む）とペットケアマンションでは似て非なるものは、このお話からお解かりいただけるはずです。

ペットユーザーに特化して、サービスを強化し、オーナーの資産価値とCS満足度を高め、パートナーやスタッフと共に自己実現に向かいチャレンジする。それがアドホックスピリットなのです。